

# 人が育む国際都市 横浜

市民との共感 そして信頼

「女性の視点」をプラスして

林 渡辺さんの新聞のエッセイ、拝見しました。すばらしい感性をお持ちの生粋の浜っ子ですね(笑)。横浜の街の個性を端的に捉えていらっしやうって感動しました。

渡辺 お恥ずかしい文章ですが、あのような機会があると横浜に生まれ育って良かったなとつくづく思います。市長におなりになって1年、どんな年だったでしょうか。

林 経営者の頃から「人が基本」が信条で、はじめての行政の世界でもそれを貫いてきました。「現場主義」も同じです。市民の方に市役所においでいただいてご意見を聞くことはできますが、その方の活動や暮らしのお近くに行かなければ本当のことはわかりません。とにかく私は、区役所はもちろん保育園や学校、施設などにでかけ、そこを利用される方や現場で働く方に声をかけ、今何が大変で、どんなことに困っているのか聞いて回りました。その中で知った市議員の方々の日々の活動に私は頭が下がりました。渡辺さんは議員さんの活動を肌で感じられたことありますか。

しく、国も県もそうです。必死になつて知恵を絞らないといけません。行政だけではできないので民間と二輪にやつていく必要があります。横浜は開港から大震災、そして戦災や占領、それらを乗り越え、経済成長期のあとの財政困難期のピンチを市民と行政が力をあわせてここまで発展してきました。そのようななか、MICEの誘致実績を積み重ねてきた結果、今回、APEC首脳会議が開催されましたが、これは横浜を世界にアピールする絶好の機会となりました。

渡辺 MICEを誘致する上で、横浜の強みとはなんでしょうか。

林 強みは4つあります。最上級の市民のホスピタリティ、羽田国際空港に近い立地、多様・多彩な会議施設、充実したアフターコンベンション機能です。これらの強みを活かしながら、企業誘致にも常に一生懸命取り組んでいます。私が社長のところに乗りに来ていきトップセールスを行なっています(笑)。みなとみらい21地区では日産自動車グローバル本社や、富士ゼロックスR&Dスクエアに続いて、富士ゼロックスがさらに関連会社などを集積しているほか、レノボ・ジャパンが、研究開発拠点の立地を予定しており、世界的な企業がこれからも増えます。



**林 文子**  
はやし ふみこ  
横浜市長  
1946年東京都生まれ。東京都立青山高等学校卒業。BMW東京株 社長、㈱ダイエー 会長 兼 CEO、東京日産自動車販売株 社長 等、要職を歴任。2004年ウォールストリートジャーナル紙「注目すべき世界の女性経営者50人」、米フォーブス誌「世界で最も影響力のある女性100人」、2008年米フォーチュン誌「世界ビジネス界で最強の女性50人」等に選ばれ、注目される。2009年8月、横浜市長に就任。主な著書に「失礼ながら、その売り方ではモノは売れません」(亜紀書房)、「一生懸命って素敵なこと」(草思社)など。

渡辺 感じたいとは思いますが、具体的にはわかりにくいですね。

林 地元の行事や町内の会合があって土・日もほとんどお休みがなく、毎日市民の生活の場で活動してられる。そういう方々のご意見を聞いてはじめて市の政策への提言がでてるのです。ですから私は市会との関係をすごく大事にしています。

渡辺 市長になられたとき、横浜市民として新鮮な期待がありました。イギリスでサッチャーさんが登場されたときの感じと言ったら大袈裟でしょうか。でも、林市長ならきつと何かしてくださいと。以前お聞きした、選挙時の演説や、ご自身の大きな看板が恥ずかしかったという話は、とても共感しました。

林 今回、中期4か年計画の素案をつくり、「市民と歩む「共感と信頼」の市政」というサブタイトルをつけました。行政の世界には共感ということがあまりないのですが、私を感じた選挙カーやタスキ、自分の看板が恥ずかしいというのは普通の市民の感覚ですよ。その共感から信頼につながっていく。いま政治の世界だけでなくいろいろな場面で、人は信頼をつくらうとしています。相手にも共感する気持ちがないとなかなか

また横浜市が環境モデル都市、スマートシティのひとつに選ばれたのも、技術力と市民力が評価されたものです。東アジアは経済が力強く都市化が進んでいます。横浜市はインフラ技術が足りない、水道の技術レベルは日本一、すぐれたバイオの技術を持つ中小企業もあります。上水道の給水や下水処理、汚泥の資源化の技術も先端的で、こうした技術力を活かして国際協力を進めていくとしています。また、国際会議では横浜はゴミの処理がすごいねといわれますが、これは企業だけでなく市民のレベルが高くないと実現しないのです。

渡辺 私たち市民もゴミの分別や資源化はもう日常当たり前になっています。

渡辺 ところで横浜は外国人もたくさんでいられますね。

林 そうです。国際交流・多文化共生も市政の重要なテーマです。外国人の方にとって、東京・横浜はビジネスの場として魅力的ですが、お子

進まないと思いますので、私の相手の立場に立って考えましようといっています。

渡辺 家庭の中の女性の視点から共感できる方策がでてくる。ご主人が定年を迎え、これからどんな人生をどれだけ続けるのか、そのためには何が必要かというようにですね。

林 そうですね。高齢者が生き生き元気になります。という言葉だけでは何も伝わりません。リタイアした方々が幸せになるにはどうしたらいいのか、お住まいの地域で行政が支えるとしたらそれは何なのかを考えれば、答えはより具体的になります。私は人と人が向き合って会話することがなによりも大切だと思います。

ピンチをチャンスに

渡辺 横浜は開港150年の節目のあとAPEC首脳会議を開催しました。今後、国際都市としていかに発展していくのか、日々の目線の延長に中長期の視点も必要になってくると思います。

林 私はとても幸運だと考えています。地方自治体は財政がとても厳

さんの教育の場を心配されることもあるようです。横浜には8万人の外国人が住んでいます。各国の学校が充実しています。例えば、東京・横浜ドイツ学園は100年以上もの歴史を持つ学校です。市では、学校だけでなく身近な生活の場でも外国人をお助けしようと国際交流ラウンジを今年の11月時点で9カ所設置しています。12月にはさらに1カ所オープンします。言葉のレッスンも市民のボランティアでやっています。人や企業に選ばれる魅力ある国際都市としてこれからも力を入れたい、私は将来の横浜を考えるとワクワクするのです。

渡辺 横浜では一人のヒーローを描く大河ドラマはできないといわれているようですが、逆にいえば経営者や店主それぞれが、築き守ってきたヒーローなんだと思います。自分たちで築いてきた街に住む市民に、市長が意思をもってビジョンを伝えることはとても大事だと思います。

林 横浜の人はキャラクターが際立っています(笑)。パン屋さんも、港で仕事している人も、一目みると横浜でどんな仕事をしている人かわかる。そんな空気がありますね。

渡辺 そうですね。私の祖父と父、

※1 Meeting, Incentive travel, Convention, Event/Exhibitionの頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネス、イベントなどの総称。

※2 最新技術を駆使して都市全体のエネルギー効率を高め、省資源化を徹底した、地球環境配慮型の都市づくり構想。